

絵本・本の紹介

資料

○からだの絵本

- 「あっ！そうなんだ！性と生」 エイデル研究所
「あっ！そうなんだ！わたしのからだ」 エイデル研究所
「男の子のからだえほん」「女の子のからだえほん」 パイ インターナショナル
「おれたちロケット少年」・「ポップコーン天使」 手丸かのこ 子どもの未来社 **【マンガ】**
「ミラクル☆Age BOYS&GIRLS」 手丸かのこ 子どもの未来社 **【マンガ】**
「男の子のからだ絵本」・「女の子のからだ絵本」 北沢杏子著 アーニ出版
「オトコの子の『性』思春期男子への13のレッスン」 染谷明日香著 みすこそ **【マンガ】**

○多様性を考える絵本

- 「タンタンタンゴはパパふたり」 尾辻 かな子訳 ポット出版
「たまごちゃん、たびにでる」 大西 よしみ訳 イタリア会館出版部
「王さまと王さま」 リンダ・デ・ハーン ポット出版
「だがし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか？」 多屋光孫 汐文社
「レインボーKids 知ってる？LGBTの友だち」 手丸 かのこ 子どもの未来社 **【マンガ】**

○命の誕生

- 「せつくすのえほん」 みずのつきこ 山本直英著 子どもの未来社
「おなかの赤ちゃん」 講談社 **【写真絵本】**
「おへそのあな」 長谷川義史 BL出版

○自己肯定感を高める本

- 「絵本 からだうた」 日暮かおる 文 中島優子 絵 エイデル研究所
「アイラブミー」 じぶんをたいせつにするえほん オバック絵 たけむらたけし文 新潮社
「いのちのまつり」 草場一壽 サンマーク出版
「たまごにいちちゃん」 あきやま ただし すずき出版
「おおきくなるっていうことは」 中川ひろたか 文 村上康成 絵 童心社
「えらい えらい！」 ますだゆうこ 文 竹内通雅 絵 ケロちゃん絵本
「にげて さがして」 ヨシタケ シンスケ 赤ちゃん和妈妈社
「はじめにきいてね、こちょこちょモンキー ジュリエット・クレア・ベル 子どもの未来社
「ええやん そのままで」 トッド・パール 童心社
「からだっていいな」 山本直英・片山健 童心社
「子どもを守る言葉『同意』って何？ YES,NOは自分が決める！」 レイチェル・ブライアン (集英社)

○保護者・支援者へ

- 「おうち性教育をはじめます」 ～一番やさしい！防犯・SEX・命の伝え方～マンガ 村瀬幸浩 KADOKAWA
「おうち性教育をはじめます」 ～思春期と家族編～ 村瀬幸浩 KADOKAWA
「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」 ユネスコ編 明石書店
「性のモヤモヤをひっくり返す！」 ちゃぶ台返し女子アクション 合同出版
「LGBT なんでも聞いてみよう 中・高生が知りたいホントのところ」 徳永桂子 子どもの未来社
「イラスト版発達に遅れのある子どもと学ぶ性のはなし」 伊藤修毅編 合同出版
「イラスト版10歳からの性教育子どもとマスターする51の性のしくみと命の大事」 合同出版
「生活をゆたかにする学び～障がいのある人たちの性教育の授業づくり～」 千住真理子
「10代からのセイファーセックス入門」 ―子も親も先生もこれだけは知っておこう― 緑風出版

○ネットでは：「ココカラ学園」、「セイシル」、「伸也's ホームペー」「ピルコン」「AMAZE 性教育動画」等

サイコロゲーム&おねがいゲーム

資料

〔サイコロゲームを通じて気持ちよいふれあいを行う〕

サイコロの目：握手・肩くみ・背中合わせ・ハイタッチ・腕くみ・肩たたき・ハグ・壁ドン等

お約束：①「〇〇していいですか？」と相手に聞く。

②相手の「いいです」と言う返事を聞いてから行う。

③イヤだったら「イヤです」「しません」といってやらなくて良い。

④相手が「イヤです」と言ったらしない。

⑤してもらったらお礼を言う。（ルールは紙に書いて張り出すとよい）

ねらい：①自分のからだに誰がふれるか、自分が決める。（からだの権利）

②人のからだにふれる時は聞く。（同意を求める）

③イヤな時には「イヤ」と言う力を育てる。（自己決定する力を養う）

④このゲームに参加するかどうかを含めて、自分で決める。

⑤自分と相手のからだの違いを知る（大きさ・かたち・力加減など）。

⑥人のぬくもりを感じる。

⑦ほどよい力関係を考えて相手に触れることで、相手を思いやることができる。

⑧心地よいふれあいを知ることで、イヤなふれあいが分かる。

⑨断られたら、気持ちを切り替える。

☆ルールはゆるやかなものです。例えば、ふれあいについて子どもたちで考えるのもよいでしょう。

例えば「キス」が出た場合は子どもらで話し合うとよい。サイコロを振る方は断ることはできないのだが、振る方にも断ってよいとする等、みんなが参加しやすいものに変えていくとよい。

☆友だちに「イヤ」と言っではいけないと思っている子どもが多いので、職員が初めに子どもに見せる時は、「イヤです」「お断りします」「ごめんなさい」等と断る姿を見せることが大切である。

☆1対1で行ったり、人数が多い時は、隣の人とペアになって行ったり、いろいろな組み合わせを考えてください。

〔おねがいゲーム：サイコロゲームを発展させたもの〕

準備物：お願いしますカード：かたたたき、ハイタッチ、ローラーでころころ、背中をかく、ほめてください、おんぶ、ハグ、いっしょに歌ってください等をカードで作り、前に貼る。

（慣れてくると自分で考えるのも楽しい）

ルール：①相手を選んで、前にでてきてもらい、好きなカードを選んで、お願いをする。

②そのお願いを受けるか、どうかは、自分で選ぶ。（断ってもよい）

③「はい」の返事でできる。やってもらったら、お礼を言う。

④断られたら気持ちをきりかえる。

ねらい：サイコロゲームとほぼ同じだが、子どもたちは、自分からなかなか「お願いする」ことができない。それができるようになってほしい。

これらのゲームを通して、より良い人とのかかわり方を考えたり、関係性を深めたり、広げたりします。また、思いやりやお互いを尊重しあうことを知り、自己肯定感を育てることもつながります。

子どもたちをこころとからだの主人公に

福祉型専攻科「ぽぽろスクエア」 千住 真理子

1. はじめに

- ・堺市の中学校で音楽、障害児学級を受け持ち、支援学校に勤める。支援学校に転勤し、子どもたちの性行動に性教育を始める。授業に集中し、変容の大きい学びに私が性教育の虜になる。
- ・子どもには学校と家の往復だけでなく「第3の場」が必要。放デイは、障がいのある子どもにとってなくてはならない大事な「第3の場」である。小学生から高等部まで利用でき、子どもの成長に長く関わる。そして放デイにはあこがれの先輩や対等な関係が作れる友だち、お世話できる年下の子もいる。異年齢集団での遊びや係り活動があり、その中でリーダーになったり、思いやりや折り合いをつける練習をしたり、集団の中で自分を意識できる。また、親や教員とは「縦の関係」、友だちとは「横の関係」、スタッフとの関係は「斜めの関係」で、この関係が大切。素の自分が出せ、発達之源である「遊び」がある。子どもは夕方に育つ！
- ・堺市で障がいのある青年を対象とした性のセミナー「せいかつをゆたかに」と、支援者・保護者対象の性教育セミナーをしている。7月6日（日）に支援者・保護者対象の障害児・者性教育セミナーを開く（別紙参照）。その実行委員会が2017年に、読売福祉文化賞を受賞した。その賞金を利用してスタッフ8名で、長崎の社会福祉法人南光愛隣会の独自の事業の結婚推進室「ぶ〜け」（HPあり）の婚活パーティ、子育てしている人のご家庭見学に行く。
- ・支援の必要な中学生のための“こころとからだセミナー”をしている。（休止中）
- ・福祉型専攻科「ぽぽろスクエア」の立ち上げから関わり、「性教育」と「進路」の授業を作る。進路はその人の生き方になり、「働く」だけの人生ではなく好きな人と暮らすも視野に入れると性の学びは必要となる。性の学びを抜いては考えることはできない、この2つはリンクしている。「幸せに生きるために学びます」と2つの授業を行う。性教育の指導案集「生活をゆたかにする性教育」（クリエイツかもがわ）を出した。（3月に絶版）
- ・日本は性産業では世界トップの輸出国だが、性教育では全くの後進国である。世界ではユネスコやユニセフ等の国際機関が性教育指針「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」を出し、世界ではそれに則って包括的な性教育（「人間は性を楽しむ権利をもっている」ことを前提に「安心・安全で豊かで楽しい性行動ができるようになることを目指して行われる様々な教育」で、からだの学びだけでなく、健康、人権、価値観、暴力と安全、ジェンダー、性の多様性、相談機関、福祉、人間関係等を5歳～18歳に渡って学ぶ）を行っている。国連の障害者権利委員会は日本が提出した報告書に対し、「包括的な性教育に取り組みなさい」と勧告した。他にも国連人権理事会や女性差別撤廃委員会、子どもの権利条約の委員会からも同様の勧告を受けている。

2. 大切にしてほしいこと

- ・発達年齢を考慮しながらも生活年齢を大切にする。どんな障害の重い子どもでも思春期はある。からだの変化が先に起こり、心も変化する。
 - ・性について**科学的（真実）**に知る。情報の限られている子どもだからこそ、正しい知識を教える。
- ◎性は**人権**。人として幸せになる権利。幸せになるために学ぶ。命の根幹に性がある。
- ◎自己肯定感を育てる⇒できない自分がわかったり、いじめを受けたり、よく怒られてきたり、いろんなことを大人に決められたりして、自己肯定感の低い子どもが多い。大切にされている実感が

自己肯定感を育てる。ほめる。励ます。ねぎらう。うなづく。任せる。話は否定をせずに最後まで聞く。そして最後に「私は～と思うよ」とIメッセージで返事をする。共感する。「助かったわ。ありがとう」等を心がける。

- ◎ 自己決定の機会を持つ⇒決めるまでできるだけ「待つ」。性では自己決定が大切になってくる。
- ◎ 「快」の体験を積み⇒自己肯定感の土台になる。例：お風呂上りは、「気持ちよかったね」ハンドマッサージや足のマッサージ等。「快」がわかることで「不快」がわかり、「イヤ」という時がわかる。
 - ・「ダメダメ」は人格を否定する言葉。「これならいいよ」におきかえる。例：「走ってはダメ」⇒「ここでは歩こうね」 彼らの頭の中に残るのは「ダメ」という言葉で、自己肯定感が低くなる。
 - ・障害があるからこそ、真実を伝える。(一度間違った情報が入ると、なかなか訂正できない)

4、各年代の特徴と大切にしたいこと

(1) 小学校

- ① タッチングをたっぷり行う⇒自己肯定感の土台となる。自閉症の子は愛着形成が6～7年遅れてやってくると言われている。小学生高学年位からタッチングを求めてくる子があり、やっと人に対して発達してきた姿なので応えていく。年齢で切らない。たっぷりタッチングを受け、満足すると自分から離れていく。子どもはふれられて育つ。距離感も育つ。
- ② ボディイメージを育て、からだの部位の名前や働きを知る⇒自分のからだはとっても大事。自分にさわられたり、見せられたり、「なんか変？」や「イヤだ」と思ったら、「イヤ」「逃げる」「伝える」を教える。加害者は知っている人が多い。「あなたがイヤ・変？と思ったら、直ぐに教えてね」と伝える。誰が自分のからだにさわってもよいか、自分に決める権利がある。
(からだの権利)相談があったら「あなたは悪くない」と受け止める。悪いのは加害者。
- ③ 性の質問が増える(あわてない・ごまかさない・真実を伝える) ← (発達年齢では4・5歳ごろは男根期と言って自分や異性の性器に興味を持つ時期。自分のからだで遊べるのが大切) 障がいがあるので、ゆっくりと発達をする。いつ4・5歳の発達になるか。また発達の節を乗り越えるのに年数がかかるので長く続く。その興味に応えていくことが大切である。

(2) 思春期：脳から命令が出て、ホルモンのシャワーを浴びて大人のからだと心になっていく

- ① 「大人の体」との出会い⇒自分の意思とは関係なく体が変わっていく。突然にやってくる体の変化は、心の内側から揺らす働きがある。からだが変わっていくことを知り、成長を実感したり、期待できることが大切。「カッコイイお兄さん・お姉さんになったね」
- ② 「もう一人の自分」との出会い⇒思春期が第2の誕生と言われるのは、「自分くずし」と「自分づくり」をするためである。「自分くずし」は、反抗的な態度。「自分づくり」は、内向化していき、一人でいることを好みだす。一人でいられる力「孤独力」は、とても大切。自立への第一歩である。一人で過ごすことができる空間(部屋・コーナー)を家庭で作る⇒部屋にはノックをして入る。秘密を認める。
- ③ 「好きな人」との出会い⇒異性・同性への興味・関心がでてくる。おじ・おば・放デイのスタッフの存在も大切(斜めの関係)。

☆ 思春期危機：ホルモンの出るからだに慣れるのに約10年かかる。様々な体調不良。情緒不安定。てんかんの再発・初発。障害が重くなる子や暴力的になる子(特に小さい時に体罰を受けて来た子)、フラッシュバックが起こる子等。「ダメ、ダメ」等の禁止教育で子どもに二次障害をもたら

さないようにしてほしい。(行動障害はつくられる)

☆大人を中心とした人間関係から、自分をくずし、新しい人間関係を作っていく。

☆「誰とでも楽しめる、どこでも寝ることができる」は自立への第一歩。ガイドヘルパーさんとお出かけ、放デイ、ショートステイ等福祉の制度の利用をする。

☆思春期は性に関心をもつ子が多く、この時期に性を否定や抑圧されると、大人になってかえって固執したり、ゆがんだりすることがある。知らないから行動を起こす場合もあり、その思いを受け止め、みんなで真実を学ぶ機会を作ることが大切。学ぶと落ち着く。

5. からだについてのポイント (○印は、セミナー参加者の様子や発言)

(1) 男の子のからだ

- ・からだの変化：発毛（毛を剃る子がいる）、声変わり、ペニスが大きくなる。射精が起こる。
- ・ペニスの働き3つ：おしっこを出す。精子（赤ちゃんのもと）を出す。さわって気持ちのよい所。
○「(ペニスに) さわりません」「いけません」という声があがる⇒言われてきたこと。
- ・突然の勃起は不安にさせるので、「血液が集まって大人になる練習をしているのだよ。そっとしておくとおさまるよ」と話していく。
- ・夢精について知らせておく。「朝起きてパンツがぬれていたら、それは夢精で精子（赤ちゃんのもと）が出ていること。赤ちゃんを作ることができる大人の身体になったのだよ。大人になった証拠。パンツは水ですすぎ、新しいものに替えてね」夢精は教えてもらわなければおねしょと思う子が多く、相談できずに自己肯定感が低くなる。夢精があれば、「カッコイイお兄さんになったね」
- ・ペニスを持って、包皮を引いて排尿し、終わったらちゃんと振って、また包皮を戻してパンツに入れる。入浴時にペニスの包皮をむいて、手でお湯を使い洗う。終わった後は必ず包皮をかぶせておく。包皮をむけることが大切。むけない場合は、毎日お風呂でむいているとむけるようになる。
- 包皮をむくのが痛くてむけない子がいる。男女がいっしょに学ぶと、この痛みや突然の勃起に、女子から「男子も大変やね」と声上がる。お互いを理解する力が育つ。

(2) 女の子のからだ

- ・性器の名前（ワギナ、ちつ、おちんちん等）を知る。鏡で見ておくことが大切。
- 男女とも性器の名前を知らない。鏡で見たことがある女の子もほとんどいない。
- ・女の子の性器には3つの道がある。おしっこの出る道、赤ちゃんの通る道、うんちの通る道。赤ちゃんは、赤ちゃんの通る道から生まれて来る。
- ・月経は卵子が月に一つ卵巣から出て来て、精子と出会わなければ、赤ちゃんを育てるために用意していた子宮内膜（お布団・栄養）が流れていく。胸がふくらんできたり、おりものが出始めたら、お母さんの月経に立ち会わせて準備をしていく。
- ・ナプキンの代わりに吸水ショーツの利用を。ベア吸水ショーツ（125ml）7700 円 サイズ 130cm から、以下の商品は大人サイズで、ユニクロで（40ml）2000 円、しまむら（40ml）1000 円。一番月経量が多い日で 30~50ml である。洗濯も水で濯いで洗濯機で洗う。超簡単！
- ・おりものの働き⇒ワギナの乾燥を防ぎ、ばい菌の侵入を防ぐ。洗い過ぎないように。
- ・個人差はあるが、月経の時に頭痛、腰痛等になる子がいる。また、月経一週間位前も月経前症候群のためイライラする子やしんどい子がいる。学校を休むようなしんどさは病的なのでピルを服用する。月経が始まって3か月から飲める。月約 3000 円。ピルの服用では内診はない。

○男の子は月経の話に驚き、女の子にやさしくしたいと思う子が多い。男子にはぜひ、知ってほしい。
★からだは男の子、でも心は女の子。からだは女の子、でも心は男の子、心とからだが違うトランスジェンダーの子どもがいる。障がいがあると言葉で伝えることが難しいので決めつけないで見守ってほしい。性を決めるのは本人。 自分の思いを伝えられた子にはその子がどう生きたいのか（トイレ、服、名前、更衣場所、宿泊等）、いっしょに考えてほしい。

(3) 命の誕生

- ・「どうやって生まれてきたの？」と聞かれたら、お父さん（男性）には精子（赤ちゃんのもと）があり、お母さん（女性）には卵子（赤ちゃんの卵）がある。それが出会って、赤ちゃんになる。空気にふれると死んでしまう卵子と精子、どうやって出会うのか？空気にふれないためにお母さんのからだの中にお父さんの性器を入れて、そこで精子を出す（射精する）。お母さんのからだには赤ちゃんを育てる子宮（部屋）があり、赤ちゃんが大きく育ってくると、赤ちゃんから「生まれてい」とお母さんに合図をして、赤ちゃんが生まれてくる道（膣）から生まれてきたことを伝える。帝王切開であっても大事な命に変わりはない。
- ・妊娠をした時、胎動を感じた時、出産中、出産のこと、周りの家族の思い等を、子どもに語ってあげてほしい。子どもが知りたいこと。自己肯定感が育っていく。
- 「お母さんが僕のことを“かわいい、かわいい”と言ってくれるので、僕も子どもに“かわいい、かわいい”と言って子育てしたい」
- 「自分の命の大切さがわかったから、リストカットはもうやめる」（セミナーに3年通った発言）

(4) 性器タッチ・セルフプレジャー：性器をさわる理由を考える。

①性器タッチ：自分のからだで触ってはいけない所はない。

- ・さわっている時に「ダメ」「汚い」等と言わない。“さわってはいけない所”、“汚い所”と自分のからだを否定的にとらえ、性器にさわれなくなる。排尿の時に持てない、洗えない、セルフプレジャーが手でできない。（大人になってもスポンをおろし、お尻を出して排尿する人がいる）

- ・①みんなの中でしているようであれば、他の活動に誘う⇒②動かない時は「ここでならいい」という場所へ連れて行く⇒③それでも動かない時は、毛布やタオル、衝立等、他者の目からそらす。

②セルフプレジャー：射精ができているか。できることが大切。からだに悪くない。家庭で安心してできる場所を作る。自分で決めて一人です。場所、時を選ぶ。人前でしない。傷つけない。

- ・「一人になれる力」⇒親から自立するきっかけ。見守って欲しい。

- ・本来は、個人の秘密の行為であるが、障がいのある子どもによっては、誰かの見守りや支援が必要なものもある。例えば、イライラして他害や物を壊す、30分以上トイレにこもっている、女性へのタッチが多い等、その理由がわからない時はセルフプレジャーができているかさぐる。同性の保護者がよいが、いない時は、周りの支援者に助けてもらう。大人になった実感がわく。

- ・男の子はできる方がよい。できることで落ち着く。女の子も認めていく。セルフプレジャーを止めることは、全ての抑圧につながる。セルフプレジャーの意義は、「セルフコントロール」「セルフプレジャー」「セルフディスカバリー」、「セルフプライバシー」で性的自立への第一歩である。

- ・場所や時間を選べば1日に何回やってもいい。後ろめたい気持ちを払拭させる【権利としての性】

(6) お付き合いについて：「知りたい」「教えてほしい」という気持ちが強い。

- ・いろんな好き（同性愛、両性愛、⁷Aセクシャル⇒好きに関心がない、わからない等）がある。
- ・「好き」と伝えていいよ。・**必ず返事をもらう。**・「いや」といわれたらあきらめる。・どうしたらあきらめられる？・自分の好きを押し付けない⇒○あきらめることがとっても難しい。失恋の体験等をいっぱい語ってあげてほしい。ロールモデルが必要。○恋バナは大好きである。
- ・**セックスには必ず同意がいる。**同意がないセックスは、「不同意性交罪」で犯罪である。急がなくてよい。二人で楽しい時間をいっぱい過ごしてほしい。○セックス＝性交と知らない。
- ・セックスには予期せぬ妊娠と病気（性感染症）のリスクがある。それを防ぐのはコンドームである。
- 月経がある、射精があるからだについて学んでも、セックスをすると妊娠すると知らない。妊娠は学んでいないから起こる。教えていない周りの大人の責任である。
- 「好きな人に“イヤ”と言ってはいけない」「言うとうやうや嫌われる」と考えている子が多い。
- ・コンドームを付けなくて性交をした時はすぐに相談する。緊急避妊ピルを72時間以内に飲むと、妊娠しない。
- ・レイプにあった時は、「奈良県性暴力被害者サポートセンター（NARA は一と）」（0742-81-3118 か、はやくワンストップセンター全国共通 # 8 8 9 1）に直ぐに相談する。病院、弁護士、警察とつながっている。中絶については減免制度がある。
- ・性感染症については、保健センターで匿名、無料で行ってくれる。性感染症が増えているのは、性教育がきちんとされていないためである。
- 経験をする前に学ぶと守る。（例：セックスをする時はコンドームを付ける）
- ・高等部に入学すると障がいのある子ばかりなので、ホッとして恋の花盛りになったり、モテ期がやってくる子がいる。最低限のマナーは中学生で学んでおいてほしい。
- 中学生セミナーで「おつきあいをしたらどうしたい？」⇒「キス」「セックス」と返ってくる。
- 学ぶことで彼らは慎重になり、自分を大切にし、相手を大切にようになる。

(7) その他

- ・男の子の入浴は、お母さんより身長が高くなったり、性毛が生えてきたら、お母さんはTシャツに短パンで入る。入浴支援サービスを受けたり、身体介助のヘルパーを利用したりする。
- ・スマホを持つと保護者の知らない所でいろんな情報を手に入れて子が多い。使い方のルールを話してほしい。例：リスクを知る。誰とでもアドレス・番号を交換しない。裸の写真を送れと言われても送らない。○簡単に裸の写真を送ったり、ラインで知らない人500人とつながっている人もいた。
- ・ネットで見るアダルトサイト等は18歳から。ウソの世界。お金儲けのために作っている。演技をしている。決してまねをしない。ずっと見てみると、それが普通になってくる。見ている人は「最後は、女性は許してくれる」と教科書になっている。「真似をしないでね。相手が傷つくからね」と話す。

7. 最後に

・思春期はからだが大きく変化する時です。その急激な変化が気になって仕方がなくて、それがやむにやまれぬ行動に出る時があります。それは、からだの変化への興味・関心・疑問・不安による**発達要求**と捉え、「自分のからだを知るチャンス」「からだの違いを知るチャンス」と考えてください。性教育では「寝た子を起こすな」とよく言われますが、**「寝た子を(真実で)科学的に起こす」ことが大切**です。性について学ぶと、自分の行動をコントロールする力となり、慎重になります。中学生セミナーで激しい性行動があった子どもも複数回学ぶことで落

ち着きました。性被害にあっていた子どもも元気になりました。「これならいいよ」をたくさん提示して、肯定的に見てあげてくださいね。からだについて学び、自分のからだの主人公にしてあげてください。

- ・自分で決める経験を積み、決めることができる子どもにしてあげてください。特に「NO」が言えることが大切です。彼らは五感で感じて決めます。決められないのは経験がないからです。保護者が決めた気持ちにはわかりますが、自信がなく自己肯定感が低い子どもになります。性ではその場で決めることがふえます。急にはその力は育ちません。重度の子どもには、その子のできる仕草で「YES」と「NO」のサインを決めてあげてください。そして、その思いを言葉で返してあげてください。経験を積むとサインが段々大きくなってきます。「NO」が言えたら、自分の人生を自分で決めるころの主人公になります。

- ・今、「からだの権利」が大切になってきています。「誰もが、自らのからだに誰が、どこに、どのようにふれることができるのかを決める権利をもっている」というものです。今までおこなってきた「プライベートゾーン教育：水着で隠れるところと口はプライベートゾーンで、他の人に見せたり、さわらせたりしてはいけません」とは異なるものです。本来はからだ全部がプライベートパーツであり、自分の大切なところは自分で決める、からだのことを自分で決められる力をつけてあげてください。

- ・私たちが性教育を受けて来っていない、どう話して良いかわからない、障がいのある子どもに必要なの？と思われるかもしれません。しかし、情報の少ない子どもたちだからこそ、正しい知識が必要です。夢精をおねしょと思っていたり、女の子が自分の性器の名前を知らなかったり、アダルトビデオで見るセックスがセックスの教科書になっていたりする人がいます。北欧では、小学校 1 年生から性教育は必須教科です。性は人権で、人として幸せに生きるために学びます。障害者権利条約の第 23 条では「彼らの家庭をもつ権利」、「子どもを持つ権利」、「性教育を受ける権利」が書かれています。私は「性教育を受ける権利」を大切にしたいです。ぜひ、学校、放デイ、家庭で性教育に取り組んでください。今、良い絵本やネットがあります。資料を付けていますので、ぜひ、よろしくお願いします。(絵本の資料添付)

【参考資料：障害者権利条約】

- ・障害者権利条約は 2006 年に国連総会によって採択され、日本では 2014 年に発効した。
- ・50 条ある中で第 23 条は「家庭及び家族の尊重」である。「締約国は、他の者との平等を基礎として、婚姻、家族、親であること及び恋愛関係に係る全ての事項に関し、障害者に対する差別を撤廃する(後略)」
 - (a) 婚姻・家族形成の権利の保障（そのための合理的配慮をしないことは「差別」）
 - (b) 家族計画の権利、包括的な性教育を受ける権利
 - (c) 生殖能力を奪われない権利